

テレビでコロナ感染ニュースを見ていて（恐縮ですが）麻雀を思い出しました。2、4、8、16、32、64、128、256、512が頭に浮かびます。2×2=4、4×2=8、8×2=16・・・256×2=512、数字の差が一定ではなくだんだん大きくなっています。

コロナの感染はまさしくこの数字変化のようになっています。古く日本の「和算」では「ネズミ算」と称されており、二匹のネズミが4匹の子供を作るとするならば、その子たちが作る孫は8匹となり、それが16匹のひ孫となり、更に・・・というところからその名前が付いています。

過日の新聞に掲載されていた記事で、一枚の新聞紙を一度折ると2倍の厚さになり、それをまた折ると4倍に、更に折ると8倍というように50回折ったらどれくらいの厚み（長さ）になるだろうかというエピソードが紹介されていました。Aさん云く「数十cmかな」、Bさん云く「ビルの高さ位かな」。答えは「太陽まで届く高さ（距離）」だそうで、驚きです！

一般新聞紙の厚みを0.07mmとして計算すると、 $0.7 \times 2 \times 2 \times 2 \times \dots \times 2$ と「×2」を49回繰り返すと地球から太陽までの距離（39万Km）より大きな数字になります。ちなみに折る回数が半分の25回だと620Kmとなりだいたい大阪と福岡間の距離です。

紙を折る作業を人と人との接触到置き換えれば、今日の前にしているコロナ感染の拡大の速さ、そしてスピーディーな対応の必要性を感じさせられます。

似た例え話も紹介しておきます。小遣いを増やしたい女の子が父親に或る提案をする。1円から始まって毎日倍の額を欲しいと。つまり2日目は2円、3日目は4円・・・父親は約束し、始めのうちは大したことないと思ったものの30日目には数億円になることが途中で分かり約束を果たさず謝まったそう。

今回のコロナ感染者数の増加の仕方は「指数関数的に増加する」と表現されており、テレビで等間隔目盛りの棒グラフで示すだけでなく、最近是对数グラフを使って増加する比率が分かるように表わし、感染の勢いがどうなのかを説明され始めています。「対数グラフ用紙」は死語かと思っただけに懐かしく思い出しています。

以上暇に任せて徒然に。